

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301950		
法人名	メディカル・ケア・サービス(株)		
事業所名	愛の家グループホーム郡山日和田 2ユニット「たけとんぼ」		
所在地	福島県郡山市日和田町字財ノ木原15-4		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の実施している「散歩」、月に1回は必ずご入居者の行きたい場所へ外出すること、年間3大行事、の3点に力を入れている。特に外出はご家族様にも参加いただき、好評を得ている。また、日常からご入居者様と買物に出かけたり、一緒に調理をしたり、掃除をしたりと、その方の有する力に応じたサービスの提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝・夕礼時に運営理念の唱和をし、ホーム内で意識を共有している。また、毎月のスローガンを掲げ、それに基づいたケアを日々行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩を通じ近隣の方と挨拶を交わす等して交流を図っている。又、町内会に参加し地域の方々に夏祭りに参加して頂いている。又、近隣のお子様が時折来訪され、勉強を入居者様に教わっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に参加するなど、認知症に関する近隣の相談事に対応する体勢を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議では、ホームの活動報告や話し合いを行い、意見・要望を聞いたり、疑問点などの相談に乗って頂いている。各ユニットでご家族代表を一名ずつお招きし、意見交換を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方に普段のご様子を見て頂きながら、情報交換も行っている。その上で運営推進会議でも取組みを報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束廃止要項を掲示し、又、内部研修・ユニット会議を通し全職員に理解するよう周知し、身体拘束をしないケアを伝達している。又、ドラッグロック・スピーチロックも同様に、行わないよう徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を通じて、虐待防止に対する意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、実際に利用されている入居者様を通し学ぶ機会を得ている。必要な方に対し活用できるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書・重要事項説明書の説明を行い、随時、解らない事、疑問に関しては上長に連絡し、回答し同意のもとご入居頂いている。改定の際も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご入居者様やご家族様にとって話しやすい環境作りに努めている。又、苦情・相談窓口やご意見箱の設置、家族アンケートの実施から、意見を頂戴している。課題は家族会で話し合い、運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議、年1回の職員アンケートなどから、意見を集めている。代表者も全国のホームで演説会を開き、職員と直接意見・要望等を伺う機会を多く設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	表彰制度・人事評価制度・レシピコンテスト等を企画、実施し、やりがいや向上心の促進を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修からホーム長研修までを内部研修として行い、段階に応じた育成に努めている。加えて、外部研修の推奨も随時行っている。また、各ユニットにユニットリーダーを配置し、現場での実践教育をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	基本的には、転職者が気軽に遊びに来られる環境である。外部研修では仲間作りを推奨し、横のつながりを確立している。また、行事を通して近隣グループホームを行き来して交流を深めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前に関し、御家族様との面談や、本人様の思いを傾聴することで、生活背景の把握等、安心を確保する関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等、ご家族様の困っている事の傾聴の他、今後の本人様の生活の方向性や現在のグループホームで出来る事などを話し合い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の介護力や本人様の状態に合わせて、グループホームだけにとらわれることなく、他のサービスの利用を検討できる旨の説明も行い、関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、家事など共に行うことで、感謝の気持ちを表している。レクリエーション（習字・歌）を通して学ぶことの大切さを知り、散歩時は車椅子を押して頂くことで支え合いと助け合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは随時連絡を取っており、ご本人様が今までの生活サイクルを崩さず、暮らしやすい環境作りにしている。また、行事等参加を呼びかけし、参加いただいている。更に、ご家族を集めた親睦会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出先は、入居者様の馴染み深い場所を選び、思い出話をして頂くなど、場所に配慮している。又、年賀状などの支援を行い、関係を途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩など、日々の行動の中で支え合う場を作り、外出など行動範囲が広がるように支援している。又、職員が間に入り、入居者様の関係を取り持つようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止むを得ず退居する際などは、その後のご家族と入居者様を配慮し、退居後の支援をすることを入居時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、カンファレンスを通じ、その方のニーズ把握に努めている。又、生活背景をご家族様から聞き取り、ニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時、ご家族様からのアセスメントをしたり、本人様よりお聞きしたりと生活背景の把握に努め、又、以前サービスを受けていた方などは、先方からの情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時、ご家族様などからのアセスメントやご家族様の面会時など聞き取り、背景の把握に努め、又、ケアを受けていた方などは、先方からの情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の説明の際や、日々の電話や面会時に、計画書で取り上げて頂きたいことをお聞きし反映している。又、各入居者様の主治医の見解や必要事項も計画書に記載している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を個人記録に記入している。又、申し送りで情報を共有しておける。サービス提供が実践されていたかどうか検討し、カンファレンスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様やご家族様のその時々のご要望に対して、既存の考え方にとらわれない方法を随時話し合い、対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署などの協力を求め、安全性の確保を支援している。又、月2回相談員を招き傾聴して頂いている。その他行事にはボランティアを招いたり、必要に応じて図書館などの地域資源も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を促し、いない方に関しては、地域の往診医を紹介している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師来訪され、皆様の身体状況を確認している。又、急変時の電話連絡への対応も24時間行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	南東北病院、ひわだ太田診療所等と連携し、情報の共有を図り、備えている。また、医療相談員ともコミュニケーションを密にし、より良い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、ターミナルケアのご意向を確認している。又、ターミナルケアに向けて家族へ文書などで指針を示し、看護師を含め、態勢を確保し備えている。職員には、会議等を通してホームの指針を伝達し、意識の統一を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを電話の近くに設置し、フローチャートに目を通すことで発生時に備えている。又、掃除機を使用した吸引方法等の緊急時対応を、内部研修にて実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施している。又、毎月、自主防災訓練を実施している。更に、地域の方々が災害時に駆け付けてくれるよう、日々の散歩を通して地域に理解を深めたり、町内会参加し、非常時連絡網で協力体制を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昼夜を問わず、居室入室時はノックをしたり、尊厳に配慮した声掛けをしている。又、排泄の際の声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月の外食などに入居者様の意向を反映し、メニューを入居者様に決定して頂いている。又、日々の生活においても、入居者様の意思で行動できる様、必ず伺いを立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの実践をしている。その人らしさを尊重し、決して職員の都合でケアをしないよう、啓発をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月2回の訪問理容を利用している。又、本人が他を希望される時は、家族への協力を促すなど希望に添える様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	外出や誕生日会等の行事は入居者様の意見を取り入れている。又、食事においても、入居者様と一緒に買物から調理まで行い、意見を取り入れている。配膳下膳も、その方の状態に応じた援助を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを考えた献立を立てている。又、介護職員が摂取量を確認している。更に、入居者様の状態に応じ、個別対応も行っている。必要水分量に関しても、各かかりつけ医と連携し、その把握と提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は、ご自分で口腔ケアをして頂いている。但し、一部介助が必要な方には、介助にて行って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を設け、その方のペースに応じた声掛け、対応を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩など適度な運動と、水分補給を行っている。又、往診時、医師への報告を行い服薬の検討を適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様の希望に添える様に努めている。又、プライバシーも配慮し、声掛け程度で一人で楽しめる支援も行っている。浴室も2箇所あり、時間にも余裕が持てるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に設けず、又、居室内での睡眠は昼夜を問わず妨げることはしていない。午前中は活動的に、午後から夕方にかけては体を休めて頂くような、一日のリズム作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット箱、個人記録簿に処方箋を添付し、服薬する際確認している。変更が生じた場合、その都度周知し確認している。又、服薬マニュアルの実施により、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、日々の生活に活かした支援をしている。又、月1回外出を企画し、思い出の場所などに行かれ、楽しんで頂いている。又、買い物から調理までを行われ、楽しみとされている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩にて戸外に出る機会をつくり、行事以外、買い物など希望がある場合は、その都度支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はホーム側で行っているが家族の了解を得て、個人で管理している方もいる。又、買い物の際、商品の支払いまで行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機はフロアー、スタッフルームに設置することにより、自由に使用できるようにしている。又、実際にご自分で電話をされている方もいる。年賀状などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたカレンダーや壁絵を入居者様と作成し、フロアーに掲示している。又、照明の明るさを外からの光と合わせて調整している。カーテンの色は、落ち着いたものを使用している。職員は入居者様に配慮し、大きな声や騒がしい音を出さない様気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー入り口、又、廊下奥にベンチを置き、気の合う入居者様同士が話し合える場所を設けている。カーテンなどの仕切りも無く、居間のソファがベッドになり、そこで寝ることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時に今まで使ってきたものを使用して頂く旨を説明し、思い出深いものや好みのものを設置し、在宅時の環境を継続して頂くよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内、トイレ内、浴室には、手すりを設置している。又、低い物干しを用意し、入居者様の身体機能を活かせる様配慮している。トイレや浴室などの表示は、混乱や失敗を最小限にする様、目線の高さに合わせたり、大きな文字で表示している。		